

大項目	2	持続可能な社会の実現にむけた地球的課題と国際協力			
中項目	2-3	持続可能な開発と国際理解・国際協力			
小項目	2-3-1	持続可能な地球・世界とSDGs Future Earth			
細項目 (発問)	2-3-1-1 SDGs	SDGs (持続可能な開発目標) の歩みとこれからの課題は何ですか			
作成者名	氷見山幸夫	作成/修正年	2020/2021/2022/2023/2024	Ver.	1. 4
キーワード 5~10 個程度	SDGs, ESD, MDGs, 持続可能な開発、持続可能性、アジェンダ 21、地球環境問題、国連環境計画				

## 発問と説明

### (1) SDGs の発足からの経緯と目的を理解しよう

2015 年 9 月にニューヨークで開催された国連の持続可能な開発サミットは「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」を採択し、そこに掲げられた 17 の「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals, SDGs) は 2016 年 1 月 1 日に発効しました。これは 2030 年を目標年とする、持続可能な世界の実現を目指す国際プログラムです。図 1 に示されるように、17 の目標は目を引く図、言葉、色、デザインで表現されていて大変わかりやすく、SDGs の普及に貢献しています (参考 url 1)。各々の目標の具体的内容を示す 169 のターゲットも、誰でも理解しやすいようによく工夫されており、今や世界の持続可能性向上に向けた諸々の活動や研究・教育の強力な道具、更には幅広い活動の牽引車になっていると言えます。SDGs は国連とその他の国際機関や NGO、科学者などの何年にもわたる努力により実現したもので (参考文献 1)、世界が抱える持続性向上のための課題を俯瞰し、各人が自分自身や自分たちのコミュニティに何ができるのかを考えるうえで大変有用です。教室で SDGs を取り上げる際に使い易かつ内容が優れている資料としては、国連広報局作成のパワーポイントがあります (参考 url 2)。

SDGs の基になっているのは、1992 年にブラジルのリオデジャネイロ市で開催された国連の地球サミット (環境と開発に関する国連会議) で採択された持続可能な開発の実現のための包括的なプランである「アジェンダ 21」(参考 url 3) と、2000 年 9 月に国連のミレニアムサミットで採択された「著しい貧困の撲滅のためのミレニアム宣言」の中心となった「ミレニアム開発目標」(MDGs) (参考 url 4) です。

アジェンダ 21 は表 1 に示すように 40 章からなる大部なもので、「社会的・経済的側面」、「開発資源の保護と管理」、「主たるグループの役割の強化」、「実施手段」の 4 つのセクションに分けられています。このセクション構成から明らかなように、環境汚染、環境破壊、温暖化、人口問題などのいわゆる地球環境問題を狭く捉えがちだったそれまでの取組に比べると、貧困、消費形態、健康、居住、意思決定などの社会・経済・文化的側面にもしっかりと踏み込んでいます。そして多様な問題の解決に向けた課題を具体的に示し、各国政府だけでなく地方自治体、産業界、労働組合、科学・技術コミュニティ、NGO/NPO、青年や子供たちまでも含む様々なグループにそれらへの取り組みを求めた革新的なものでした。リオサミットは、多くの国々のトップリーダーたちだけでなく NGO/NPO も多数参加し、文字通り官民を挙げた持続可能な世界の実現に向けた前例のない一大イベントとして、歴史に残る画期的なものでした。このサミットは国際的 NGO/NPO の高い能力と重要な役割を強く印象付け、当時国際化がやや遅れていた日本の NGO/NPO にとっても、飛躍への大きなきっかけになりました。

MDGs は開発分野における国際社会共通の目標であり、表 2 に示すように、極度の貧困と飢餓の撲滅など 2015 年までに達成すべき 8 つの目標を掲げ、期限までに所定の目標をほぼ達成するという大きな成果をあげました。SDGs は MDGs を更に強化し、引き続きあらゆる形態の貧困をなくすことを目指していますが、持続可能な開発に関する 3 要素、即ち「経済成長」、「社会的包摂」、「環境保護」の 3 つの要素の間の調和を重視し、豊かな国を含むすべての国々に、豊かさを求めながら地球を守ることを呼びかけています。経済成長を促しつつ教育、健康、社会的保護、雇用機会を含む幅広い社会ニーズを満たしながら気候変化や環境保護に取り組むものであり、実はアジェンダ 21 が提起した多くの課題をカバーする優れて包括的な目標です。



図1 「持続可能な開発目標」(SDGs)

[https://www.unic.or.jp/common/img/p\\_agenda\\_title.jpg](https://www.unic.or.jp/common/img/p_agenda_title.jpg) 引用

**表1 アジェンダの40章**

**第1章前文**

**セクションI 社会的・経済的側面**

- 第2章 開発途上国における持続可能な開発を促進するための国際協力と 関連国内施策
- 第3章 貧困の撲滅
- 第4章 消費形態の変更
- 第5章 人口動態と持続可能性
- 第6章 人の健康の保護と促進
- 第7章 持続可能な人間居住の開発の促進
- 第8章 意思決定における環境と開発の統合

**セクションII 開発資源の保護と管理**

- 第9章 大気保全
- 第10章 土地資源の計画及び管理への統合的アプローチ
- 第11章 森林減少対策
- 第12章 脆弱な生態系の管理：砂漠化と干ばつの防止
- 第13章 脆弱な生態系の管理：持続可能な山地開発
- 第14章 持続可能な農業と農村開発の促進
- 第15章 生物の多様性の保護
- 第16章 バイオテクノロジーの環境上適正な管理
- 第17章 海洋、閉鎖性及び準閉鎖性海域を含むすべての海域及び沿岸域の保護、及びこれらの生物資源の保護、合理的利用及び開発
- 第18章 淡水資源の質と供給の保護：水資源の開発管理及び利用への統合的アプローチの適用
- 第19章 有害及び危険な製品の違法な国際的移動の防止を含む、有害化学物質の環境上適正な管理

- 第20章 有害廃棄物の違法な国際的移動の防止を含む、有害廃棄物の環境上適正な管理
- 第21章 固形廃棄物及び下水関連問題の環境上適正な管理
- 第22章 放射性廃棄物の安全かつ環境上適正な管理

**セクションIII 主たるグループの役割の強化**

- 第23章前文
- 第24章 持続可能かつ公平な開発に向けた女性のための地球規模の行動
- 第25章 持続可能な開発における子供及び青年
- 第26章 先住民及びその社会の役割の認識及び強化
- 第27章 非政府組織 (NGO) の役割の強化：持続可能な開発のパートナー
- 第28章 アジェンダ 21 の支援における地方自治体イニシアチブ
- 第29章 労働者、労働組合の役割の強化
- 第30章 産業界の役割の強化
- 第31章 科学・技術のコミュニティ
- 第32章 農民の役割の強化

**セクションIV 実施手段**

- 第33章 資金源及び資金メカニズム
- 第34章 環境上適正な技術の移転、協力及び人材育成
- 第35章 持続可能な開発のための科学
- 第36章 教育、意識啓発、訓練の推進
- 第37章 能力開発のための国のメカニズム及び国際協力
- 第38章 国際的な機構の整備
- 第39章 国際法及びメカニズム
- 第40章 意思決定のための情報

## (2) SDGs への取組とこれからの課題を考えよう

世界の SDGs の到達状況を把握しレビューするための場としての役割を果たしているのは、毎年ニューヨークの国連本部で開催される持続可能な開発のためのハイレベル政治フォーラム (HLPF) です。また国連経済社会部 (UNDESA) が SDGs 推進の要となり、関係する活動に対して支援と人材育成を行っています。国内では政府が SDGs 推進の中心となっています。政府は 2016 年 5 月に総理大臣を本部長、官房長官と外務大臣を副本部長とし、全閣僚を構成員とする SDGs 推進本部を設置し、同年 12 月には行政、民間セクター、NGO・NPO、有識者、国際機関、各種団体等を含む幅広いステークホルダーによって構成される「SDGs 推進円卓会議」を開き、日本の取組の指針となる「SDGs 実施指針」(参考 url 5) を決定、以後それに付された「持続可能な開発目標 (SDGs) を達成するための具体的施策(付表)」(参考 url 6) に沿って活動しています。この施策は SDGs の 17 の目標の細目に当たる 169 の「ターゲット」のレベルで、どの省庁がどんな目的で何をするのかを示した詳細なものです。実務の中心を担っている外務省は、社会で広く行われている SDGs に関連した取組を紹介することを目的としたサイト (参考 url 7) を開設しており、そこには「SDGs とは?」「日本政府の取組」「取組事例」「ジャパン SDGs アワード」といったコーナーが設けられ、平易な説明と豊富な事例が掲載されています。そのうち「ジャパン SDGs アワード」は、SDGs 達成に向けた企業・団体等の取組を促し、全国的な取組を推進するために、2017 年 6 月の第 3 回 SDGs 推進本部において創設が決定されたものです。2018 年度の実績者の中には特別賞「SDGs パートナシップ賞」を受賞した岡山県の山陽女子中学校・高等学校の海洋ごみ問題への挑戦があります。図 2 は女子中高生たちが数年前から取り組んできた活動が SDGs の観点からどう評価されたのを端的に紹介しており、中学・高校での SDGs への取組のよい参考になるでしょう (参考 url 8)。この活動は、SDGs の目標 5「ジェンダー平等を実現しよう」、目標 10「人や国の不平等を無くそう」、目標 12「つくる責任つかう責任」、目標 14「海の豊かさを守ろう」、目標 17「パートナーシップで目標を達成しよう」に貢献すると認定され、社会参画を通じて持続可能な社会の担い手を育む例としても高く評価されました (参考文献 2)。

我が国 84 万人の科学者を代表し科学者の国会とも呼ばれる日本学術会議は、2016 年頃から SDGs への取組を本格化させ、2017 年 9 月には報告「持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に向けて日本の学術界が果たすべき役割」(参考 url 9) を公表し、学術界の SDGs への積極的な取組を促しています。このような流れを受け、学術会議の月刊機関誌「学術の動向」は、2018 年の毎号で SDGs に関する特集を組みました。なお 2 月号の SDGs 特集は「中高生と考える『Future Earth と学校教育』」というタイトルで、上野の山陽女子中高の生徒さんたちも発表者として参加した、この特集と同じタイトルの日本学術会議主催学術フォーラム (シンポジウム) での報告をまとめたものです (参考 url 10, 参考文献 3)。

SDGs には多くの教科が関係しますが、なかでも地球表面で見られる自然の営み、人間社会の営み、人間と環境の関りなどの幅広い事象を対象にする地理学は、SDGs ととりわけ深く関わる学問分野です。国際地理学連合 (IGU) は地理学を「持続性の科学 (the Science for Sustainability) と表現し、SDGs への取組みに力を入れています。地理教育はまさに「持続性の教育」(the Education for Sustainability) であり、ESD (Education for Sustainable Development) と大きく重なり、SDGs とも深く関わります。地理は 2022 年度から実施される高校の新指導要領で必修科目「地理総合」や選択科目「地理探究」を通して地球規模の諸課題や地域課題を解決する力を育むことになっています。日本学術会議地理教育分科会はそれを踏まえ、2017 年 8 月、提言「持続可能な社会づくりに向けた地理教育の充実」を公表し、その中で持続可能な社会づくりに資する地理教育の内容の充実を強く求めています (参考 url 11)。

表2 ミレニアム開発目標(MDGs)の8つの目標

目標1：極度の貧困と飢餓の撲滅
目標2：初等教育の完全普及の達成
目標3：ジェンダー平等推進と女性の地位向上
目標4：乳幼児死亡率の削減
目標5：妊産婦の健康の改善
目標6：HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止
目標7：環境の持続可能性確保
目標8：開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

外務省：ミレニアム開発目標

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/doukou/mdgs.html> より引用

SDGsパートナーシップ賞(特別賞) **山陽女子中学校・高等学校 地歴部**



<取組概要>

- ・ 瀬戸内海におけるプラスチックゴミやマイクロプラスチックなどの海洋汚染にいち早く着目し、地元漁師と協働して海ゴミの回収・分析を実施。回収の際には、メディアや近隣府県の中高生を招き、情報発信や学びの場としている。
- ・ 海ゴミ問題の解決に向けては、回収とあわせて、ゴミの発生量を減少させることを重視し、海ゴミの発源地である内陸部や沿岸地域において、海ゴミ問題の啓発活動を行っている。
- ・ 行政やNPO、地元メディアと協働することにより、地域に根差した継続的な取組となっている。

<進出のポイント>

- ・ 中高生が中心となり、地域のステークホルダーを巻き込み海洋ゴミ問題を啓発。

SDGs実施指針における実施原則（アワード評価基準）	
普遍性	島嶼部の漂着ごみ問題へのアプローチは同様の問題を抱える他の島嶼部でも応用可能。
包摂性	ごみ問題の直接的な影響を受ける人々のみではなく、日本中・世界中の問題として自覚した取組を実施。
参画型	NPO、メディア、行政、住民との協働による取組を実施。
統合性	プラスチック製品の使用禁止など、国内外へ向け積極的に情報発信している。
透明性と説明責任	メディアを通じた情報発信に加え、国内外での国際会議・学会での報告・情報共有に取り組んでいる。

貢献する目標 (SDGs)



図2 山陽学園（前山陽女子）中学校・高等学校の海洋ごみへの取組

SDGs パートナー シップ賞(特別賞) 山陽女子中学校・高等学校 地歴部

[https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/award2\\_12\\_sanyoujoshi.pdf](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/award2_12_sanyoujoshi.pdf) より引用

### (3) 世界には様々な地域がありますが、地域による違いは考慮しなくてもよいのですか？

地域により環境条件や社会経済的状況、文化的背景などが異なり、優先的に取り組むべき課題も異なります。SDGs の実践には全世界で学術的・行政的な支援と共に適切な地域・空間データと情報が必要です。国連環境計画(UNEP) は Global Environment Outlook (GEO) と呼ばれる報告書を概ね5年毎に刊行していますが、この出版物は世界の環境の現状についての最も包括的で信頼されている報告書の一つです。

最新の2016年刊行のGEO-6: Global Environment Outlook: All Regional Assessments (参考 url 12) をSDGs の観点から見たときの最大の特徴は、このシリーズで初めてUNEP の6つの世界地域区分、即ちアフリカ、アジア太平洋、ヨーロッパ、ラテンアメリカとカリブ海地域、北アメリカ、西アジアについての個別の報告が、報告書の中心になったことです。それまでの報告書では世界全体を系統的視点で俯瞰し分析する視点が中心だったのに対し、地域地理学的視点が強まりました。各国は現在SDGs の達成に取り組んでおり、自らの属する地域の状況をより詳しくかつ正確に把握するための情報を強く求めています。

GEO-6 はそのようなニーズに対して、より強く応えたものと見ることができます。GEO-6 ではUNEP の6区分地域毎の最優先課題が表 3 のように整理されています。この一覧はそれぞれの地域の最優先課題が地域により大きく異なることを示しています。例えば災害はアジア太平洋地域の最優先課題ですが、他の地域、特にヨーロッパや北アメリカではそうではありません。このことは、ヨーロッパや北アメリカにおける持続可能性に関する専門家を含む人々の、災害や土地利用に対する比較的低い関心につながっています。また、災害はしばしば地球規模、ローカルな環境問題と直接間接に関係していることが多いにも関わらず、災害の専門家と環境問題の専門家との交流はあまりないということ、特にアジア太平洋地域以外ではその傾向が強いということには注意を払う必要があります。また一方、世界の6区分地域の1~2の最優先課題にのみ焦点を当てることにも注意が必要です。第一に、それは最優先以外の課題を見えにくくしてしまう恐れがあります。第二に、グローバルな分析や考察が弱まる恐れがあります。実際GEO-6 ではそのような傾向が見られます。SDGs の実践に貢献することを目指すFuture Earthがそのようなギャップを埋める研究を推進することが望まれます。SDGs は分野が異なる科学者たちが共同してこのような問題に取り組むときの相互理解とコミュニケーションの道具としても大変有用です。またSDGs はESD と連携することにより、学校教育とりわけ地理教育に広範且つ効率的に浸透することができます。

政府主導のSDGs 推進円卓会議は、前出のSDGs 実施指針 (参考 url 5) で、表 4 に示す8つの優先課題を2030 アジェンダに掲げられている5つのP、即ちPeople (人間)、Prosperity (繁栄)、Planet (地球)、Peace (平和)、Partnership (パートナーシップ) と関連付けて設定しています (図 3、参考 url 2)。これらはいずれも日本と世界にとって大変重要な課題であり、全国で広く取組が進むことが期待されます。勿論学校においては、児童生徒の関心や地域的な条件を踏まえ、国の優先課題に縛られない、自由な発想に基づく取組が大切です。

#### 参考 url サイト (以下のホームページは2024年2月参照確認)

参考 url 1 国連広報センター: SDGs logo

[https://www.unic.or.jp/common/img/p\\_agenda\\_title.jpg](https://www.unic.or.jp/common/img/p_agenda_title.jpg)

参考 url 2 国連広報局SDGsプレゼンテーション資料

[https://www.unic.or.jp/activities/economic\\_social\\_development/sustainable\\_development/2030agenda/](https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/)

参考 url 3 持続可能な開発に関する世界首脳会議実施計画 (外務省仮訳)

[https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kankyowssd/pdfs/wssd\\_sjk.pdf](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kankyowssd/pdfs/wssd_sjk.pdf)

参考 url 4 外務省: ミレニアム開発目標

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/doukou/mdgs.html>

参考 url 5 SDGs 推進本部: 日本持続可能な開発目標 (SDGs) 実施指針(2016年12月22日決定)

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/000252818.pdf>

表3 UNEP の6 地域における持続可能性に関する優先課題

アフリカ アジア太平洋 ヨーロッパ ラテンアメリカと カリブ海地域 北アメリカ 西アジア	土地の管理と利用 高まる脆弱性 低炭素高効率資源利用社会、スマートシティ、健康改善、気候変化適応  生物資源の持続可能な管理 温室効果ガスの排出削減、エネルギー転換、都市レベルのイノベーション 平和、安全、環境
--	---

GEO-6: Global Environment Outlook: all regional assessments.

<https://europa.eu/capacity4dev/unep/blog/geo-6-global-environment-outlook-all-regional-assessments> より

表4 SDGs への取組における日本の8 つの優先課題

People (人間) 1. あらゆる人々の活躍の推進 2. 健康・長寿の達成 Prosperity (繁栄) 3. 成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション 4. 持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備 Planet (地球) 5. 省・再生可能エネルギー、気候変動対策、循環型社会 6. 生物多様性、森林、海洋等の環境の保全 Peace (平和) 7. 平和と安全・安心社会の実現 Partnership (パートナーシップ) 8. SDGs 実施推進の体制と手段
--

外務省：ミレニアム開発目標

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/doukou/mdgs.html> より

- 参考 url 6 SDGs 推進本部：持続可能な開発目標 (SDGs) を達成するための具体的施策(付表)  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/000241489.pdf>
- 参考 url 7 外務省：Japan SDGs Action Platform  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/effort/index.html>
- 参考 url 8 外務省：SDGs パートナー シップ賞(特別賞) 山陽女子中学校・高等学校 地歴部  
[https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/award2\\_12\\_sanyoujoshi.pdf](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/award2_12_sanyoujoshi.pdf)
- 参考 url 9 日本学術会議：報告「持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けて日本の学術界が果たすべき役割」  
<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-h170929-1.pdf> 参考 url 10 日本学術会議：  
学術フォーラム「中高生と考える『Future Earthと学校教育』」  
<https://www.scj.go.jp/ja/event/pdf2/243-s-0903.pdf>
- 参考 url 11 日本学術会議：提言「持続可能な社会づくりに向けた地理教育の充実」  
<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-t247-6.pdf>
- 参考 url 12 UNEP: GEO-6: Global Environment Outlook: all regional assessments.  
<https://europa.eu/capacity4dev/unep/blog/geo-6-global-environment-outlook-all-regional-assessments>

#### 参考文献

- 参考文献 1 蟹江憲史 (2018) SDGs と Future Earth, 学術の動向, 23-4, pp. 61-63.
- 参考文献 2 氷見山幸夫 (2018) 環境地図展を通じた ESD、フューチャーアース、SDGs の推進, 環境地図教育研究, 20, pp. 1-8.
- 参考文献 3 井上貴司 (2018) 社会参画から持続可能な社会の担い手を育む—女子中高生の海底ごみ問題への挑戦, 学術の動向, 23-4, pp. 61-63.  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/tits/23/2/23\\_2\\_36/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/tits/23/2/23_2_36/_pdf/-char/ja)

## SDGsのもうひとつの捉え方 – 5つのP



図3 SDGsのもうひとつの捉え方—5つのP

国連広報局 SDGs プレゼンテーション資料

[https://www.unic.or.jp/activities/economic\\_social\\_development/sustainable\\_development/2030agenda/](https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/)より引用